

協進レター62号

平成23年2月25日

少しずつ、暖かさを感じる今日この頃。毎日のお仕事ご苦労様です。ありがとうございます。

先日、様々の立場の方々と、タクシーの将来についてお話しする機会がありました。その時のお話の中で思った感想を言わせてもらいます。

その前に全くの余談ですが、駅のトイレの洗面台の上に鞆とコート置いて小用を足していたところ、後ろで物が落ちる音。振り返ると何と私の鞆とコートがシンクに落ちているではありませんか。蛇口のセンサーが働いて、水が出ています。拾いに行くに行けずビショビショに。いやーっ！まいりました。

さて、タクシーの将来の話ですが、日本の将来が今一明るく映らないのと同様、業界の将来も明るさは見えてきません。でも、見ようによっては自分で明るく見る事はできると思うのです。そこにはやはり過去の既成概念で、景気回復だとか、再規制だとかの他力本願では何も解決しない事がハッキリと判りました。したがって、「どうなるのか」を考えるのは辞めて、「どうなりたいのか」を決めて邁進するのみです。それには、やはり全ての社員が「私もそうなりたい」と、共有して下さることが一番大事です。

それでは「どうなりたい」のかを、ここで表明しておきたいと思います。

夢です。「そんなこと無理だよ」、「現実が解っているのかよ」、「なにを夢みたいなことを言っているのだよ」と、言われるかもしれませんが、まさにその夢です。

コンプライアンスが遵守されている中で、老若男女の社員が元気に、楽しく、喜んで働いて、自分の仕事に情熱と誇りがもてて、それぞれの家族が幸せで、地域社会の中でなくてはならない企業で、多くの市民から愛され、親しまれ、必要とされていて、そこに感謝がたくさん生まれるような企業体になるという、夢を持ちます。

こういう夢が共有できたら、夢に向かって目標を立てて、その目標達成にどう行動すればいいかだけです。行動したらうまくいかない。そしたら検証して行動を変える。こんなサイクルを創り出していけば良いのです。

厳しい経営環境の中、この夢に向かって最初の目標を昨年8月に皆さんに時間当たりの労働生産性を2,650円にしたいという話をしました。おかげさまで、この2月までの半年の実績が介護収入も含めて2,677円という結果が出せました。ありがとうございます。

次の目標は、この達成できた労働生産性をさらに上げる行動と、同時に稼働する車両数を増やしていくことに取り組んでいきます。

こんなベクトルを、みんなに理解と協力を求めながら、本気で進めていきます。よろしくお願ひします。

最後まで読んで下さいますと、ありがとうございます。